

大丈夫!ひきこもりや不登校は特別なことじゃない

ひきこもり・不登校の子どもや若者が、元氣と笑顔を取り戻し、社会参加のパワーを手にするを目標して、NPO法人アンガージュマン・よこすかは、2004年に設立された。相談・カウンセリング、フリースペース、学習サポート、就労支援の四つのプログラムを軸にサポートを行っている。「ひきこもりや不登校は特別なことではない。誰しもが感じる思春期などの悩みが、少し長引いている、人より強いだけ。「大丈夫だよ」というメッセージ

を発信していくことが私たちの目的だ」と理事長の島田徳隆さんは話す。フリースペースは、畳の上でテレビを見たりゲームをしたり、リラクゼーションながら自由に過ごす空間。ここへ来るのが、家から出るきっかけづくりとなる。学習スペースでは、マンツーマンで各自に合った勉強を教える。「否定的な言葉は使わず、自分もできるんだ」と、自己肯定感を高められるような関わりを大切にしている」という。現在、フリースペースは6人、

学習サポートは21人が利用しているが、次第に表情が明るくなって挨拶ができるようになったり、家庭での親子関係がよくなるなどの変化が現れるそうだ。就労支援の一環として、2006年に開店した「はるかぜ書店」は、ひきこもり経験者で運営する書店だ。社会に出る前に研修しながら働く場となっている。レジ、接客、配達、仲間同士のコミュニケーションなどを実地で学んでいく。昨年10月からは、横須賀市との協働で、ひきこもりの若者た

ちが自立するためのシェアハウスを始めた。はるかぜ書店のノウハウを活かして、ひきこもり経験者だけで3か月間、暮らしものだ。今年1月末まで、20〜30代の男性4人がシェアハウスでの共同生活を体験した。休日は皆で食事をしたり、自主的に役割分担も出来上がって、親元から離れて暮らすよい経験になったようだ。アンガージュマン・よこすかは、地域の商店街内にあるのも特徴の一つだ。「商店街の皆さんも若者たちを見守ってくれたり、応援してくれる。私たちが商店街の一員としてイベント企画に携わるなどの活動もしている。こうした商店街との強いつながりを築けたことは大きな成果だと思う」と島田さん。これまでの活動が認められ、「平成24年度子ども若者育成・子育て支援功労者」として、内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。「横須賀は全国的にもひきこもりや不登校の割合が高い。悩んだり苦しんだりしている若者をサポートし、トータルで見てよかったと思える人生をつくるのが究極の目標です」



PHOTO/秦 裕一

NPO法人アンガージュマン・よこすか理事長 島田徳隆さん Noritaka Shimada

1973年神奈川県横須賀市生まれ。都留文科大学文学部卒業。東京のサポート校講師、横須賀市青少年課の非常勤職員を経て、ひきこもりや不登校の子ども・若者たちの支援を行うNPO法人アンガージュマン・よこすかの活動に携わる。2012年6月、同法人理事長に就任。横須賀市青少年自立支援関係機関連絡会議代表者会議副委員長。

ちが自立するためのシェアハウスを始めた。はるかぜ書店のノウハウを活かして、ひきこもり経験者だけで3か月間、暮らしものだ。今年1月末まで、20〜30代の男性4人がシェアハウスでの共同生活を体験した。休日は皆で食事をしたり、自主的に役割分担も出来上がって、親元から離れて暮らすよい経験になったようだ。